

## 1年間の主な行事日程

2020年	4月	4日	第56回入学式
		10日	前期授業開始
	6月	13日	オープンキャンパス(第1回)※中止
		7月	18日
	31日		前期授業終了
	8月	3日	前期試験開始(～8/7)
		11日	夏季休業開始(～9/18)
	9月	18日	夏季休業終了
		19日	学園創立記念日
		23日	後期授業開始
		26日	オープンキャンパス(第3回)
	10月	18日	大学祭
11月	14日	学校推薦型選抜	
12月	5日	本学主催業界研究会(函館)	
	23日	冬季休業開始(～1/12)	
2021年	1月	12日	冬季休業終了
		13日	後期授業再開
		29日	卒業論文提出締切
			後期授業終了
	2月	1日	後期試験開始(～2/5)
		6日	一般選抜<A日程>、社会人選抜・シニア選抜、編入学者選抜
		25日	春季休業開始(～3/31)
	3月	6日	一般選抜<B日程>
		16日	第53回卒業式
		26日	新2・3・4年次オリエンテーション
		27日	オープンキャンパス(第4回)
		31日	春季休業終了



### 函館大学 図書館

〒042-0955 函館市高丘町51番1号 TEL(0138)57-1181  
URL <https://webopac.hakodate-u.ac.jp>



ぽるとさぴえバックナンバー 函館大学 学術情報リポジトリ・函館大学広報誌  
URL <https://hakodate-u.repo.nii.ac.jp>

ぽるとさぴえ

2020.September Vol.33

函館大学広報誌VOL.33 発行/函館大学図書館



PORT SAPIE

ぽるとさぴえ

HAKODATE UNIVERSITY  
CAMPUS PRESS

特集1

「ここが変わった!」 (入学者選抜)  
函館大学の令和3年度入試制度

特集2

学生の能力を伸ばし可能性を広げる  
函館大学の学修アセスメント(評価)

就職部 高い就職率を実現している各種のキャリア支援



 函館大学



学 長  
野 又 淳 司

# 商学の教育研究として、 海外交流の成果を出す



新型コロナウイルスの感染被害に遭われた皆様に心からお見舞い申し上げます。

まずは、本学での新型コロナへの対応をご報告いたします。令和2年3月の卒業式は規模を縮小して実施し、4月には入学式を保護者・来賓なしで行い、オリエンテーションを経て授業を開始しましたが、北海道知事による大学に対する休業要請があり、4月20日から臨時休業となりました。学生が遠隔授業を受けられるかどうかの試行を行った上で、5月11日から、遠隔授業によって授業を再開しました。5月22日に休業要請が解除されましたが、遠隔授業は5月29日まで、計3週間にわたって行われ、6月1日からは全面的に対面授業に戻り、現在(9月4日)に至ります。

4月の段階で、学生には「手洗い」「マスク」「換気」「少し離れて」「体調管理」という感染予防5項目を守ることをお願いし、本学の学生はしっかりと守ってくれています。

新入生にとっては、入学してすぐに臨時休業となり、学校の様子がよくわからず、友達づくりやサークル活動に支障が出ていたと思います。感染が怖いので学校に来るのが心配という学生もいました。幸いなことに学校が再開し、いつものような活気が出てきました。同じ苦労を共有した仲間として、友情を深め、これからの学生生活を楽しんでほしいと思っています。

今回の新型コロナでは、多くのデマがインターネットを駆け巡りました。情報を収集するだけでなく、判断する力が求められています。1年生全員を対象とした「共通課題I」では、学生は新聞をスクラップする課題に取り組みます。わからない用語の意味や、記事に対する自分の意見をノートに

書き、年5回提出して評価を受けます。さらに、スクラップの記事を集計し、学生が関心のありそうなテーマを5つ設定します。ちなみに、昨年度のテーマは「脱24時間営業」「高齢者運転」「消費社会」「企業不祥事」「キャッシュレス決済」でした。学生は指定された課題図書を読み、レジュメにまとめた上で、学長・副学長が参加するグループ討議にて、自分の意見を発表し、グループとして社会問題について話し合います。物事を多面的にとらえる力、新聞記事を批判的に読み取る力を養うことが狙いの授業です。1年生全員が大学の費用負担で朝日新聞を購読しており、スマホの電子版も活用しています。昨年10月には朝日新聞社の渡辺雅隆社長が本学を訪問され、学生の取り組みを高く評価していただきました。

また、昨年11月には、キャンパスコンソーシアム函館が主催する学生研究発表会「アカデミックリンク」にて、本学学生は台湾にある長栄大学の学生と共同で研究発表を行いました。研究発表会に海外大学が参加したのは初めてであり、研究発表した内容も評価され、青森市の高等教育機関の研究発表会にも参加することができました。語学留学ではなく、商学の教育研究としての海外交流の成果が出たことは、私にとって大変うれしいことです。ただ、新型コロナの影響で、今後しばらくは海外への渡航が制限されてしまい、留学や海外研修の実施は難しいかもしれません。しかし、学生は遠隔授業での経験を生かして、インターネットを駆使して海外の学生との交流をしてくれるでしょう。今は力を貯める時期と位置づけて、飛躍の基礎となる学習にしっかりと取り組んでほしいと思います。

## CONTENTS

- 学長メッセージ(学長 野又 淳司) ..... 1
- 特集1 「ここが変わった!」函館大学の令和3年度入試制度(入学者選抜) ..... 3
- 特集2 学生の能力を伸ばし可能性を広げる函館大学の学修アセスメント(評価) ..... 5
- 就職部 ..... 9
- がんばる社会人一年生・インターンシップ体験 ..... 10
- 教育の特徴、オープンキャンパス ..... 11
- 新任教員 & 職員紹介 ..... 13
- 出身校紹介 北から南から ..... 14

- KANDAI ing CLUB TOPICS
  - 軟式庭球部 ..... 17
  - 硬式野球部 ..... 18
  - アウトドア同好会 ..... 18
- CAMPUS REPORT
  - 函大ゼミナール紹介 ..... 19
  - 朝日新聞社社長・渡辺雅隆様が御来学 ..... 20
  - PBL(課題解決型学習) ..... 21
  - 令和元年度 学校法人野又学園 決算書 ..... 21
- 授業アラカルト
  - 「商学実習」藤原 凜 准教授 ..... 22



# 「ここが変わった！」

## 函館大学の 令和3年度入試制度 (入学者選抜)

近年、社会からの高大接続改革への要望が高まる中、函館大学では改善・向上方策を検討してきました。そして令和3年度入試から、新しい入試制度を導入することが決定。昨年度までの入試制度とはどこが、どのように変わったのか、入試部長の若松教授に教えていただきます。

**Q** 令和3年度の新たな入試制度は、昨年度からどのような変更点があったのかを教えてくださいませんか？

**A** 大学入学後にしっかりと能力を伸ばすという目的から、まず、学校推薦型選抜(変更前・推薦入試)の受験者は、昨年度までは特別奨学生を希望する受験者のみが必須となっていた学科試験を、令和3年度からはすべての受験者に受けてもらうことになりました。学科試験は国語、英語、数学の3科目必須となります。

**Q** 一方、一般選抜(変更前・試験入試)はどのように変わったのですか？

**A** 昨年度までの学科試験は国語、英語、数学、簿記の4科目の中から2科目選択でしたが、国語、英語、数学の3科目必須に変更しました。本学は文系の大学ではありますが、IT化などが進む現代社会では数理系の能力も求められており、数学を必須としたのは特徴的と言えるでしょう。これと連動し、入学後も数学のテストを行い、苦手な学生には基礎的な数学の授業を受講してもらう制度を今年度から取り入れています。

**Q** 国語、英語の試験内容についてはいかがでしょうか？

**A** 考える力や、その考えを自分の言葉で的確に表現することはとても大切です。そこで国語では、従来は「読んで問いに答える」という試験内容でしたが、新たな入試制度では「読む」だけでなく、批判的・論理的に考えをまとめ、記述するスタイルの試験になります。そして英語は、入学後のTOEIC試験の受験とも連動し、4技能(読む・書く・聞く・話す)の中でも、特に「聞く」、「話す」に重点を置きます。スピーキングでは受験者に問題を見てもらい、問いに対してコンピュータに向かって話すなど、少人数制の本学ならではの特徴的な方法の試験を実施します。

**Q** 試験内容を含めてさまざまな変更点がありますが、その狙いとは？

**A** 大学として、みなさんが入学後、本学で円滑に且つ、より深く学修してもらいたいということが大きな狙いです。そのために、高校生のみなさんには、大学へ入学する前に基本的な学習をしっかりとやってもらいたいと思っています。

**Q** 新しい入試制度を導入することにより、大学として学生に期待していることは？

**A** 国語、英語、数学の3科目必須としたことにより、継続的に学習する習慣を身に付けた人たちに入学してもらえることを期待しています。その習慣があれば、大学での学びを通してさらに自分を成長させられるはず。高校生のみなさん、世の中のさまざまなことに関心を持ち、大学への入学前から基本的な学習にしっかりと取り組んでいってください。

### ◆ 入試区分の名称が変更

変更前	変更後
推薦入試	学校推薦型選抜
試験入試	一般選抜
センター試験利用入試	大学入学共通テスト利用選抜
社会人入試・シニア入試	社会人選抜・シニア選抜
編入学試験	編入学選抜

入試部長  
若松 裕之 教授



## 令和3年度入試についての さまざまなアピール活動

今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から、6月に予定していた第1回目のオープンキャンパスを中止にせざるを得なかったなど、新しくなる本学の入試制度の説明が十分になされていません。そこで本学では、オープンキャンパスとは別のアピール活動として、「出張オープンキャンパス」、「放課後入試相談会」、「Web個別相談会」を実施しています。それぞれの内容については下記をご覧ください、お気軽にご利用ください。

### 1 出張オープンキャンパス

高校生、保護者等を対象に道内外に赴いて行っています。

#### ◆大学の概要説明

商学部商学科の各コース、アクティブラーニング、就職状況、一人暮らしの大学生活などについて詳しく説明します。

#### ◆ミニ講義

商学系、英語系、一般教養系など、実際に大学で行われている講義の短縮版を体験できます。

#### ◆学生交流

学生スタッフと一緒に楽しくおしゃべり。学生生活・学費・奨学金、就職など、リラックスした雰囲気の中で気軽に相談ができます。

#### ◆資料・記念品配布

参加者全員にオリジナルグッズをプレゼントします。

※交通費の補助はありません。

URL <https://www.hakodate-u.ac.jp/campusevent/trip-opencampus/>



### 2 放課後入試相談会

高校生、保護者等を対象に函館大学内で行っています。

#### ◆開催日(今後の予定)

2020年10月13日(火)  
2020年12月3日(木)  
2020年12月17日(木)  
2021年1月14日(木)  
2021年2月18日(木)  
※時間は各日16:00~18:00

#### ◆内容

◎個別相談形式  
函館大学で学べる内容や令和3年度入学者選抜について説明する個別相談形式です。普段のオープンキャンパスに来られない方も、30分の短い時間でポイントだけお伝えします。



※申し込みの締切は、各回の前日までとなります。

※交通費の補助はありません。

URL <https://www.hakodate-u.ac.jp/campusevent/ad-con/>



### 3 Web個別相談会

ご自宅のPCやスマートフォンから本学職員に相談ができるWeb個別相談会を、Web会議アプリケーションの「ZOOM」を使用して実施しています。

#### ◆ご利用方法

- Web個別相談申込フォームより予約 本学よりミーティングIDとパスワードを連絡します
- アプリをインストール スマートフォンで「ZOOM」アプリをインストール、またはPCで「ZOOM」のサイトにアクセス
- アプリを起動 ミーティングに参加を選択し、ミーティングIDとパスワードを入力
- Web個別相談開始

#### ◆開催日程

日程：毎週火・水・木曜日 ※祝日は除く

時間：15:00~18:00 ※相談時間は1人30分程度としています



※申込確認後、ご登録いただいた

メールアドレスにミーティングIDと

パスワードを送ります。

※申込の締切は各回の7日前までとなります。

URL <https://www.hakodate-u.ac.jp/campusevent/web-con/>

campusevent/web-con/



上記に関するお問い合わせはこちらまで、お気軽にどうぞ。函館大学入試課 ☎0120-00-1172



学生の能力を伸ばし可能性を広げる

# 函館大学の 学修アセスメント(評価)

学生の主体性をサポートする取り組みを行うとともに、学修成果のアセスメント(評価)に力を入れる函館大学では、内部評価・外部評価・内部調査を体系的に取り入れています。学生の能力を伸ばす学修アセスメントの本学の取り組みについて、教務部長の寺田教授に教えていただきました。

## 学生の学修の到達度を客観的に図る

学修アセスメントとは、分かりやすく言えば学生の学力の到達度を客観的に図り、しっかりと評価することによって、より良い改善につなげていくという体制のことです。今、大学は社会に対して、情報をしっかりと発信していくことが求められています。この情報発信の中心となるのが、学生の学力の向上度。それを大学がきちんと把握したうえで情報発信す

るとともに、大学改善につなげていくために実施しているのが、学生の学修成果の評価(アセスメント)です。その目的、達成すべき水準および具体的実施方法などについて定めた大学の方針である「アセスメントポリシー」に基づき、さまざまな内部評価・外部評価・内部調査(P7参照)を組織的に行っています。

## 学修アセスメントを 3つのレベルで実施

本学では、学生の能力を伸ばす学修アセスメントを3つのレベルで実施しています。まず1つ目のレベルは学生個人の学修成果の評価です。学生が毎日受講している授業科目について、どのような目的や内容で講義をし、評価していくのかというシラバスをしっかりとしたうえで、科目の成績が公平につけられているかを大学が調査して評価しています。2つ目のレベルは、教育課程全体のアセスメントです。大学には、どのような人材を育てて社会へ送り出すかというディプロマポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)というものがあります。それをさらに具体化していく中で、教養・倫理観やビジネススキルなどを評価する共通ルーブリックや科目群ルーブリックを作って評価しています。そして3つ目がTOEICや日商簿記検定などの外部の検定試験です。この外部試験は、学生が費用負担なく受けられるようにしています。

教務部長  
寺田 隆至 教授



### 函館大学アセスメントポリシー

#### 1 学生個人レベルの学修成果の評価

- ◎授業科目の単位認定においては、担当教員はシラバスに到達目標と評価基準を明記し、大学は組織的にシラバスの妥当性や成績評価の分布を検証する。
- ◎在学生を対象とした各種調査やヒアリングを定期的に行い、学生の学修成果を定性的に把握する。

#### 2 教育課程レベルの教育成果の評価

- ◎ディプロマポリシーに基づき、学部および専門科目の領域ごとに到達目標をルーブリック(学修の到達度を表を用いて測定する評価方法)として定める。
- ◎ルーブリックに基づき、学年ごとに実施する共通課題、および卒業論文により、知識・技能・態度の評価を組織的に行う。

#### 3 機関レベルの教育成果の評価

- ◎外部の検定試験やアセスメントテストを通じて、他大学学生と比較した本学の学生の到達度を客観的に把握する。
- ◎学外を対象とした各種調査やヒアリングを定期的に行い、教育機関としての本学の評価を定性的に把握する。

学修アセスメントについて分かりやすく解説する寺田教授。学生への確かな評価とともに、本学の特色を見据えた対応が重要と強調。



# 学年ごとに学修アセスメントを設定

学修アセスメントは、1年次から4年次まで学年ごとに内部試験、外部試験、内部調査を設定(下図参照)しています。例えば、1年次は内部試験で「共通課題Ⅰ」、外部試験では「TOEIC Bridge」、内部調査では「学修行動調査」などを行っています。そして4年次では内部試験で「卒業論文」、外部試験では社会で求められる汎用的な能力・態度・志向=ジェネリックスキルを測定・育成する「PROG」のテストを設けるなど、学生の学修成果を客観的に測定し、本学の教育改善や学習指導に活用しています。

さらに、在学生だけではなく、卒業生についても、就職先でどのような評価がされているのかを本学職員が調査するなど、外部からの評価も積極的に収集しています。

また、本学では1・2年次は「商学実習」、そして3・4年次になると「専門ゼミナール」があります。学修アセスメントでは、それら各種講義との相乗効果が出ることを期待していることも、大学側としての大きな狙いのひとつになっています。



図書館内には教職員が選定した課題図書の本棚があり、学生は興味を持った書籍を選ぶことができます。(共通課題Ⅲ)

## ピックアップ! 共通課題

学修アセスメントの内部試験として、大きな柱のひとつとなっているのが「共通課題」です。この「共通課題Ⅰ～Ⅲ」は授業科目ではありませんが、1年生から3年生まで学年ごとの必修科目のひとつとなっています。成績表には可否しかつかず、ゼロ単位ではありませんが、卒業要件に入る大事な科目です。学年ごとの詳しい取り組み内容は下に紹介しています。

例えば、共通課題Ⅰでは新聞記事や課題図書を読み、レジュメにまとめてからグループ討議に臨んでもらいます。物事を多面的に捉え、新聞記事を批判的に読み取る力を養うことを目的としています。これは決して簡単にできることではありません。しかし、さまざまな場面や講義で勉強してきたことの集約のようなものですから、しっかりと取り組んでもらいたいと思います。

学修アセスメントの概要図

	1年	2年	3年	4年
内部試験	共通課題Ⅰ グループ討議	専門科目群ルーブリック 共通課題Ⅱ	コモンルーブリック 共通課題Ⅲ 学長面談	卒業論文 中間報告会
	TOEIC Bridge 日商簿記3級 SPI	TOEIC L&R		PROG
外部試験				
内部調査	SLシート	学修行動調査(年2回×4年間)		

### 共通課題Ⅰ(1年生)

学生は年5回スクラップした新聞記事を提出。学長と副学長を交えてグループ討議を行う(レジュメ事前提出)。

### 共通課題Ⅱ(2年生)

商学を構成する法律・経済・会計・マーケティング・経営の5分野について、専門知識および専門分野の英単語の択一試験を実施。

### 共通課題Ⅲ(3年生)

大学教職員が推薦文を書いた50冊の図書から、学生は好きな1冊を選択し、図書の感想をレポートとして事前に提出した上で、学長との個人面談(15分間)を行う。大学生としての読解力・自己表現力が身に付いているか評価する。

## まとめ

学修アセスメントは学生の入学時から卒業に至るまで、学力がどのように伸びたのかを客観的に評価することによって、学生たちにより良い大学生活を送ってもらうための改善につながる、大学にとってはとても重要な取り組みです。

大学の費用負担で外部試験を受けられたり、調査・研究ができます。みなさんのチャレンジに対して、必要なことを大学が提供し、学生の「伸びる」を全力でバックアップしています。

卒業生においても、就職先で「どのように評価されているのか」などの調査を行っている。



# 高い就職率を実現している 各種のキャリア支援

企業側の求人意欲は、社会の人口減の影響もあり、人手不足感が続き、今年度も非常に高いようです。しかし、採用意欲は高くても「良い人材だけを採りたい」という状況は変わりません。そのような中で、本学の就職実績は96.7%という高い数字を達成することができました。卸・小売業19.0%、その他のサービス業17.2%、金融保険業15.6%、製造業10.3%と商学部ならではの幅広い分野で活躍しています。

また、企業の厳選化傾向は今後も続くであろうと予想されます。そのため大学では、その傾向に対応できる学生を育てていくことが求められています。それに対応すべく本学では、就職に向けた様々なキャリア支援を展開しています。

1つ目は、学生への「実践教育」です。企業の人事担当者を招いて「就職模擬面接研修会」を実施し、採用のポイントや受け答えの仕方、面接指導を含めて就職活動に役立つ具体的な実践教育を一日かけて行っています。

2つ目は「学生へ向けての報告会」です。就職担当教職員が、年間約70社の企業訪問を行い、収集した情報をガイダ

ンスの中で報告し、学生の就職活動を展開しやすくしています。

3つ目が「キャリア支援講座」の開催です。1年次には「キャリアプランニング」(15回)、2年次は「キャリアガイダンス」(14回)、3年次にも「キャリアガイダンス」(22回)を実施しています。その他には、SPIテストをWEBで行う企業が多くなっていることから、SPI受験対策も実施しています。

さらに例年12月に開催している「業界研究会」では、約60社の企業の人事担当者に来ていただき、学生が直接担当者に業界や事業内容などの話を聞く有意義な場を設けています。また、ゼミの担当教員が、学生一人ひとりに対してきめ細かい就職支援を行っているほか、キャリアスタッフによる面接指導、履歴書・エントリーシートの書き方などの指導も随時行っています。

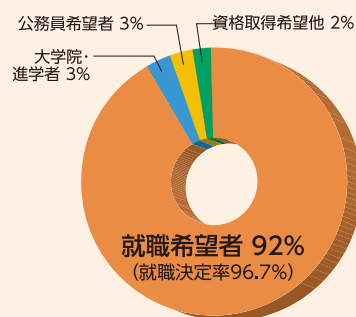
キャリア開発課では、就職に関する資料の収集、開示、就職相談を行っており、学生がキャリア・デザインを早期から描くことができるような親身な指導・助言を行っています。

就職部長  
今井 敏博 教授

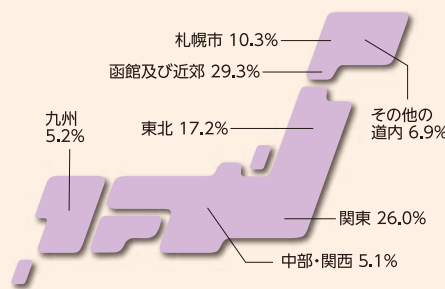


就職実績 (2020年3月卒業生)

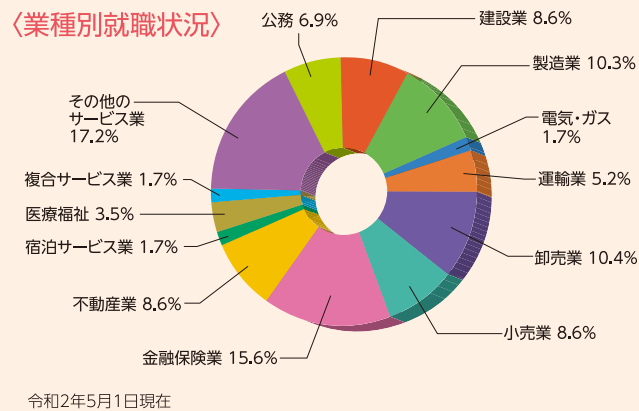
〈進路状況〉



〈地域別就職状況〉



〈業種別就職状況〉



## がんばる社会人一年生

社会人一年生として新しい一歩を踏み出した先輩たち。目標や夢を持ち、新ステージで躍動しています。



日々の仕事に  
ゼンリョクで取り組み、  
成長したい

北海道電力(株) 勤務  
鈴木 里彩 さん  
商学部商学科企業経営コース卒  
(北海道函館商業高等学校出身)

北海道電力に就職してから2カ月が経過しました。私が配属された部署の業務は、販売活動から電気料金の回収まで多岐にわたります。その中で私の主な仕事となるのは、お客様からの電気のご契約に関するお問い合わせや、ご相談にお応えする業務です。

お客様からのお申し出は様々であり、正確に答えるためには幅広い知識が必要とされます。そのため、毎日が勉強の日々ですが、とても充実しています。現在はコロナウイルスの影響もあり、行える業務の幅が狭まっていますが、お客様により良いご提案ができるよう、これからも日々の仕事にゼンリョクで取り組み、成長していきたいと思っています。



社会に求められる  
人材を目指して

苫小牧信用金庫 勤務  
小田 桐 舜 さん  
商学部商学科市場創造コース卒  
(東興義塾高等学校出身)

大学時代は商学の勉強以外にサークル活動やアルバイトにも取り組み、忙しくも充実した日々を送りました。限られた時間の中で目標と予定を立てて実行したことは、常に期限と向き合う社会人生活を送るうえで大いに役立っています。函館大学は小規模制の大学ということもあり、困った時は気軽に教授の皆様へ助言を求めることができました。

私は、地域の中小企業や人々を応援する金融機関である信用金庫に就職しました。仕事では、接客した際にお客様から「ありがとう」、「がんばってるね」などの声をかけていただくこともあります。日々覚えることが多く大変ですが、社会人として求められる責任を果たせるように、大学時代に得た経験や知識を活かして頑張っていきたいと思っています。



相馬 那々香 さん  
商学部商学科  
企業経営コース4年  
(弘前東高等学校出身)

たくさんの業界に  
触れる貴重な機会

私は入学当初から金融業界に興味を持っていたので、3年次の9月、函館商工信用組合で2日間、そして野村證券株式会社函館支店で3日間、インターンシップに参加させていただきました。函館商工信用組合では座学がメインでした。銀行と信用組合、信用金庫の違いなどの基本的なことから、業務内容の詳しい説明も受けました。野村證券株式会社では証券会社の仕事内容や、銘柄研究をして実際にお客様にプレゼンするように発表しました。どちらも個人情報保護のため、具体的な業務体験はできませんでしたが、基本的なことを学ぶことができたことは、金融業界を志望していた私にとって大変勉強になり、改めてこの業界に進もうと強く思うことができました。

インターンシップは、たくさんの業界に触れるチャンスでもありますし、業界研究や自己分析にも繋がります。また、実際に働いている人たちに話を聞くことができるので、ぜひ参加することをおすすめします。

## INTERNSHIP インターンシップ体験

私は2019年9月に野村證券株式会社と函館商工信用組合のインターンシップに参加しました。現時点で私は、金融機関に興味があることは変わらないのですが、新聞社の方により興味を持つようになりました。新聞社に興味を湧かしたきっかけはインターンシップ。そこで新聞の大切さを痛感し、新聞に関わる仕事に就くのもいいかなと思ったのです。

人間の好みは変わります。食べられなかった食べ物が好きになったなど、みなさんも心当たりがあるのではないのでしょうか。それと同じように、興味がある業界も変わる可能性があります。だからこそ決めつけずに、多くの業界に目を向けてください。

インターンシップはさまざまな発見があり、自分自身を改めて知る貴重な体験です。短期間の体験なので不完全かもしれませんが、参考になるのは間違いありません。後悔をしないためにも、ぜひインターンシップに参加してみてください。

川村 優人 さん  
商学部商学科  
企業経営コース3年  
(北海道函館商業高等学校出身)



さまざまな発見で  
自分を  
知る





# 質の高い教育と就職に強い大学



入試部長  
若松 裕之 教授



本学の最大の特長は、独自の教育システムと、学生による調査・研究やキャリアデザインの実現をさまざまな形でサポートする充実した支援体制にあります。

本学は、早くからアクティブラーニングという能動的な学修を促す手法を採用し、教育界・産業界から注目されてまいりました(大手進学予備校河合塾による調査。『日本経済新聞』2011/2/21)。この手法による「商学実習I・II」(1・2年次)などでは、学生による地域研究をはじめ、企業とのコラボによる商品や観光プランの開発などが、新聞やテレビニュースなどで数多く取り上げられております。

このほか、本学のビジネス企画研究室をはじめとした学生の研究グループが、青函を題材とした教育旅行プランで、海洋観光大学東日本教育旅行研究大会(同実行委員会、日本財団主催。2016/9/10)において最優秀賞を獲得したのをはじめ、はこだて学生政策アイデア・コンテスト(はこだて地方創生研究会主催。2017/11/23)で最優秀賞、日銀グランプリ(日本銀行主催。2018/11/23)で優秀賞を受賞するなど、本学のアクティブラーニングの質の高さを示すものとなっています。

また、本学は創立50周年(2015年)を機に、さまざまな形で海外留学・海外研修の機会の拡充を進めてまいりました。ニューカッスル大学(オーストラリア)、ハワイ・パシフィック大学のほか、南開大学滨海学院(中国)、長栄大学(台湾)との研究・教育交流も実施しております。その他、アジア・マーケティング研修会(対象国:香港、シンガポール、タイなど)での調査・研究の取り組みもあり、海外で学ぶ機会がどんどん増えています。また、こうした海外研修費用の一部を大学で助成するなど、金銭面での支援も手厚いものになっています。

本学は、従来から就職に強い大学という評価をいただいてまいりましたが、『週刊ダイヤモンド』(2011/12/1)の特集号「就職に強い大学ランキング」で、道内限定で第3位、道内私大ではトップ(全国総合98位)となり、本学の就職実績の高さはお墨付きをいただくことになりました。本学の就職の強さは、一般的な指標の数値である就職内定率(96.7%)はもとより、就職内定者+進学者/卒業者数、という実就職内定率(92.1%)の高さに表れていると思っております。

このように、本学のすぐれた教育システムと高い就職実績は、マスコミからも注目され、高い評価を得るにいたっております。

## オープンキャンパス

### 学生が案内するオープンキャンパス



今年度は、本学主催のオープンキャンパスを4回開催します。オープンキャンパスでは、本学の教育内容や入学者選抜、就職支援、学費・奨学金の説明、ミニ講義、キャンパス見学があり、本学の情報と雰囲気を知ることができます。

ついて詳しく説明をいたします。個別相談にも対応していますので、お気軽にお声がけください。

オープンキャンパスなどに都合がつかない方には、Web個別相談も受け付けていますので、日時などの詳細は本学HPをご覧ください。

じっくりと本学のことを聞いて、自分の目でたしかめて、本学を選んで欲しいと思っております。内外から高く評価されている本学の教育システムと、充実した学生サポート体制のもと、学修・研究、クラブ活動に打ち込んで有意義な学生生活を過ごし、納得のいく就職を勝ち取ってほしいと思います。



12:45~  
概要説明  
参加者の皆さんに講義に集まっていただき、本学の担当者から入試・学科・コース・宿舍・通学バス等の説明をしていきます。

14:00~  
ミニ講義  
本学での4年間の学びをイメージできるよう、商学・英語・教職など、実際に行われている講義の短縮版を体験していただきます。

14:40~  
キャンパスツアー  
在学生のキャンパススタッフが本学内の各施設・設備の説明を行いながら、皆さんをご案内していきます。

15:00~  
学生交流  
リラックスしながら、在学生との交流タイムを設けています。気になることや疑問など、何でも気軽に聞くことができます。また、保護者説明会も同時開催しています。

## オープンキャンパスで 函大生の自分をイメージ

在学生がキャンパススタッフとして皆さんを案内していく本学のオープンキャンパス。在学生との交流の中でさまざまな話が聞けたり、実際の講義を体験できたりと、入学後の自分がイメージできるプログラムを用意しています。そこで、当日はどのような流れで本学のことを知ることができるのか、プログラムの内容を見ていきましょう。

【オープンキャンパス開催日時】 2020年6月13日(土)・7月18日(土)・9月26日(土)  
2021年3月27日(土) 各日12:45~16:00  
※当日は函館駅前・函館大学間で無料送迎バスもご利用いただけます。

【出張オープンキャンパスIN青森】 2020年8月29日(土) 13:00~16:00



Web個別相談会 開催中!!  
お問い合わせ先 / ☎0120-00-1172  
メールでのお問い合わせは [www.hakodate-u.ac.jp](http://www.hakodate-u.ac.jp)



新任教員 & 職員紹介

函館生まれの風間先生は、渡島管内で中学校教員と校長を務め、今年4月から本学で教職免許取得に向けた専門教科を中心に教えています。「教職を目指す学生たちに、自分の経験も伝えていきたいです」と話す風間先生は、教員としてずっと大切にしてきたポリシーがあるそうです。「それは『教育は人なり』です。先輩方からそう教わってきましたし、自分自身もこれを実践してきたつもりです。この思いを学生たちにも伝えていきたいと思っています」。

本学の雰囲気や「温かい」と感じている風間先生。「職員は親身になって学生と接し、学生たちも講義が終わると『お疲れさまでした』と声をかけてくれます。これには感動しました」と、早くもこの学風が気に入ったようです。未来を担う若者たちを育てられるよろこびを原動力にして、今日も学生たちが待つ教壇へと向かいます。

風間 和夫 教授  
Kazuo Kazama

一人でも多く、  
教育現場に立つ  
学生を育てたい



佐藤 浩史 専任講師  
Hiroshi Sato

学生たちと一緒に、  
次代の函館に向けて  
動きたい

企業に所属し第一線で活動するとともに、大学院で組織論を研究していた佐藤先生。その後、教員の道へと進み、札幌や東京の大学で経営系の講義を行っていたそうですが、本学では主にマーケティング系の科目を担当しています。「企業の経験が長い中で実感したのは、理論と実践のどちらか一方だけではうまくいかないこと。その両方が必要なのです」と話します。

そんな佐藤先生は、理論系の講義では実際に社会で起こっていることを、そして実践系の講義では理論と結びつけ、学生に必要な学びをしっかりとインプットしてもらえるように工夫しているそうです。教員としてだけではなく、佐藤先生が大切にしていることは、「とにかくやる」なのだとか。「特に、1年生に対しては度々言っていることです。学生と一緒に私も体を動かし、次世代の函館に向けた地域活性化への取り組みを積極的に行っていきたいと思っています」。

本学出身の佐藤さんは、在学中に硬式野球部のマネージャーとして同部を支え、卒業後は信用金庫勤務を経て本学へ戻ってきました。転職したのは、本学への感謝の気持ちからだったそうです。「硬式野球部の監督にお世話になったため、ずっとこの大学に恩返しをしたいと思っていたのです」。今年4月からは入試課で広報活動に尽力しながら、硬式野球部のコーチとして後輩を指導しています。佐藤さんが楽しみにしているのは、学生たちの成長を見守ることです。「入試課は大学の入口。入学から卒業までの間、学生たちがどのように成長していくのを見られることが一番のやりがいです。学生たちとは年齢も近いので、頼りになる先輩になれるよう頑張ります」と決意を語ります。目標は「卒業式で毎年泣ける職員」。やるべきことに対し、求められる以上の成果をあげたいと熱意を見せてくれました。

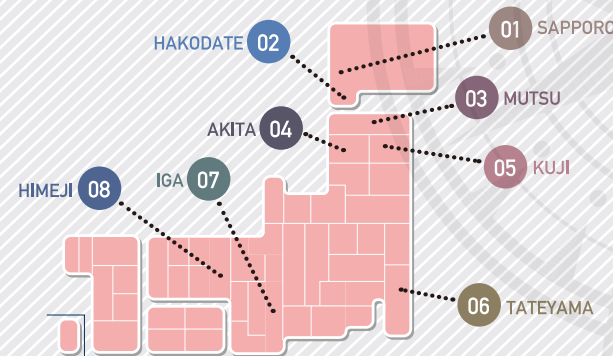
入試課 佐藤 大樹さん  
Daiki Sato

お世話になった  
学生時代の  
恩返しをしたい



出身校紹介

北から  
南から



01 北海道 科学大学高等学校

住所/北海道札幌市豊平区中の島2条6丁目2番3号 創立/昭和31年 TEL/011-821-0173

大学との一体型教育を通して目標を見つける

北海道科学大学との一体型教育を通し、高校在学中から大学での学びを日常的に体験。ALT(外国語指導助手)や留学体験、さまざまな高大連携授業などを通してグローバルな視野を持った人材を育てる。

私の出身校である北海道科学大学高校は、勉強しやすい環境が整い、さらに全国大会に出場する部活がある、文武両道の実現が可能な学校です。学習環境については、北科大高独自の尚志塾で朝や放課後20時までの自習室の開放、2日間とことん勉強する勉強マラソンなどの制度があり、とても充実していました。自習室は、私自身はもちろん、多くの生徒が利用していました。一方、男子バレーボール部、ソフトテニス部、合唱部など部活動が盛んだったことも特徴です。

私はそんな高校で、継続することがいかに大切かを学びました。漢字検定の勉強に力をあまり入れずに検定試験に落ちた時や、定期考査で良い結果が出なかった時は、毎日の復習など日々の積み重ねの大切さがよく分かりました。その学んだことを活かし、今は毎日少しの時間でも復習するよう心がけています。継続することは習慣につながるので、勉強面だけでなく、いろんな方向で活かしたいと思っています。

商学部商学科1年  
大久保 ヒカルさん



02 北海道 函館中部高等学校

住所/北海道函館市時任町11番3号 創立/明治28年 TEL/0138-52-0303

全国・世界で活躍できる人材育成を目指す

生徒の多くが大学進学を目指す。文部科学省の「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(SELHI)」の研究指定校として成果をあげ、「スーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)」の指定も受けている。

私の出身校である北海道函館中部高等学校は、明治28年に函館尋常中学校として開校した歴史と伝統のある学校です。自主性を重んじる自由な校風ですが、文武両道の精神で国立大学や難関大学への高い合格実績を上げていくとともに、部局活動でも優秀な成績を修めています。

私は部局には所属していませんでしたが、志の高い友人たちとともに勉強に励み、日常的に学習する習慣を身に付けることができました。また、「受験英語」を超えた「使える英語」を習得させるために、英語教育に力を入れていることも特徴です。基本的には、英語の授業はすべて英語で行われるため、確実に英語力を向上させることができます。授業内では、英語を話す機会がとて多かったため、クラスメイトとの会話を通して、楽しみながら実践的な英語を学習することができました。

私は高校生活を通して、本当にさまざまなことを学びました。それらの学びを活かして、大学生生活を充実させていきたいと思っています。

商学部商学科  
英語国際コース1年  
岡河 萌さん





## 03 青森県立 田名部高等学校

住所/青森県むつ市海老川町6番18号 創立/大正6年 TEL/0175-22-1184

### 教職員一体となり、生徒の全人教育に邁進

町立田名部女子実業補習学校として設立され、現在は全日制普通科・英語科と定時制を併せ持つ。校訓「自律・協和・純正」を人生の理想と掲げ、知・徳・体のバランスのとれた人材を育成している。

私の出身校である田名部高等学校は、100年ほどの歴史を持つ学校です。体育祭や文化祭、芸術鑑賞教室などのさまざまな楽しい行事もあり、文化祭には毎年たくさんの方々が来校します。また、課題研究をしたり、ボランティアやTHEプロフェッショナルという独自の講演会に参加することで単位を取得し、高校生スキルアップ認定証をもらうこともできます。田名部高等学校は、なかでも英語教育に力を入れており、私が所属していた英語科では語学研修旅行でアメリカへ行ったり、異文化理解授業も受けていました。異文化理解授業では韓国、アメリカ、イギリス、中国、台湾の国際交流員の方々を招き、言語や文化を教えていただき、異文化に興味のある私にとって、この授業は楽しみでした。また、語学研修旅行ではホームステイをしてホストファミリーとの仲を深めたり、アメリカの文化を体験するなど、私にとってこの経験は、とても貴重で忘れられない思い出です。大学でも英語の勉強に励み、海外へ行ってみたいと思います。

商学部商学科  
英語国際コース1年  
工藤 りほさん



## 06 千葉県立 安房高等学校

住所/千葉県館山市八幡385番地 創立/明治35年 TEL/0470-22-0130(代)

### 心身ともに健康的な人材育成を目指す

校訓に「質実剛健・文武両道」を掲げ、部活動への入部率がとても高い。生徒の学力および人間力向上を重点目標とし、豊かな人間性と創造性を備えた人材を育成している。

私が卒業した千葉県立安房高等学校は千葉県の最南端にあり、1902年5月25日が創立記念日で、2008年4月1日に千葉県立安房南高等学校と統合しました。学科は普通科で、千葉県の進学校として知られています。安房高等学校は「質実剛健・文武両道」の校訓のもと、一人ひとりが勉学にも部活動にも真剣に全力で取り組んでいる学校です。高校生活では勉強も頑張りましたが、より以上、部活動に力を入れていました。私は野球部に所属しており、その中で技術面はもちろん、礼儀など社会に出ていく人間として大切なことを、この安房高等学校野球部で学んだと思います。勉強はどちらかといえば不得意でしたが、最低ラインをクリアできるように必死に頑張ってきましたので、耐える力など、ほかにもいろいろと学ぶことができました。大学でもこの学んできたことを活かし、部活動で結果を残すとともに、勉強もしっかり頑張りたいと思っています。

商学部商学科1年  
小笠原 聖さん



## 04 秋田県立 秋田南高等学校

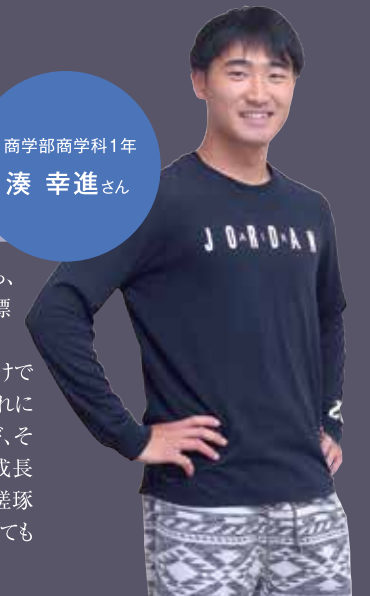
住所/秋田県秋田市仁井田緑町4番1号 創立/昭和37年 TEL/018-833-7431

### グローバルリーダーの資質や能力を身に付ける

平成28年に中等部を併設した中高一貫教育校としての基本理念は、「郷土や国家を支える高い志と国際的な視野を備えたグローバルリーダーの育成」だ。

私は小学生の頃から、ずっと野球に打ち込んできました。そこで選んだ高校は、部活動が盛んでありながら、県内でも有数の進学校。出身校である秋田南高校は、学業も部活動も非常にレベルが高く、文武両道を目標としている学校です。高校生活では学業、部活動を通して学んだことがたくさんありました。特に秋田南高校野球部は、技術面だけではなく、社会へ出た時のマナーなど、何事にも感謝の心を持って取り組むことの大切さを教えていただき、それによって豊かな人間性も育んでくれたと感謝しています。また、学業では毎日の継続が必ず力になることを学び、それを部活動に活かすことができました。高校で過ごした3年の時間は、未熟な自分を身体的にも精神的にも成長させてくれた、かけがえのない財産となりました。今、私は大好きな野球を続けながら、新たな仲間と共に切磋琢磨する日々を送っています。後輩たちから、「自分もあの人のようになりたいから函館大学へ行きたい」と思ってもらえるように、日々努力していきたいです。

商学部商学科1年  
湊 幸進さん



## 07 三重県立 伊賀白鳳高等学校

住所/三重県伊賀市緑ヶ丘西町2270番地1 創立/平成21年 TEL/0595-21-2110(代)

### 自分の可能性を見つけ、能力を高める学び

工業、農業、商業、福祉の職業について学ぶ7つの学科を持ち、地域で活躍する職業人として、社会に貢献する専門的な知識や技術を身に付けられる「地域の高校」だ。

伊賀白鳳高等学校は、7つの学科に13コースある選択の幅の広さが特徴的な高校です。入学してから毎週各学科の実習を体験し、1年の夏頃に希望の学科とコースを選択します。いろいろな学科を体験してその分野について知り、自分が興味のある学科、コースを選べるのは白鳳高校ならではの強みだったと思います。また、就職希望の生徒が多く、相談に乗り慣れた優しい先生や、学科ごとにこだわりを持つ個性的な先生方が多かったという印象があります。私は高校2年生の時、それまでやったことのないソフトテニス部に入部しました。最初は正しい打ち方もわからず苦勞しましたが、教え方が上手い友人や諦めない、まっすぐ生きるというような考えを持った先生に出会ったおかげで部活が好きになり、最終的にはレギュラーになることができました。いろいろな学科を体験したからこそ、「これをやってみたい」というものができ、今、私は函館大学にいます。そして、部活動を通して得た諦めない気持ち、好きになることや興味を持つことで飲み込みが早くなるといった自身の体験を活かし、意義のある大学生活を送れるようにしたいです。

商学部商学科1年  
森辻 颯斗さん



## 05 岩手県立 久慈東高等学校

住所/岩手県久慈市門前第36地割10番地 創立/大正9年 TEL/0194-53-4371

### 夢の実現を目指す生徒一人ひとりが主役

平成16年度に久慈農林高校、久慈水産高校、久慈商業高校の3校が統合し、総合学科高校となる。生徒一人ひとりが主体的に考え、自ら学び、活動する「生徒が主役の学校」をスローガンに掲げる。

久慈東高校は総合学科高校であり、7つの系列、11の科目群に分かれています。その中で自分の将来の進路に合わせて勉強する内容が選べ、より専門的な学習ができる学校です。私は高校2年生から情報ビジネス系列経営科目群に所属し、簿記や情報、マーケティングについて学びました。久慈東高校にはさまざまな行事があるのですが、特に記憶に残っているのは文化祭で行った東高祭マーケットです。この文化祭はほかの高校とは違い、2日間で外部から約3,000人の方々が来校します。その中で、マーケティングの授業で学習した流通の流れや簿記で身に付けた会計方法を活かし、チームに分かれて販売実習を行いました。仕入れから卸値の交渉、販売、売上の計上までをすべて生徒だけで行うという、ほかの高校ではできないであろう貴重な経験をいただけたと思います。私はこの活動を通し、商品が消費者へ届くまでの流過程や接客の仕方について学び、販売の実践力が身に付きました。函館大学での学びにそれを活かし、さらなる成長を目指して努力していきたいです。

商学部商学科1年  
清水畑 彩花さん



## 08 東洋大学附属 姫路高等学校

住所/兵庫県姫路市書写1699番地 創立/昭和38年 TEL/079-266-2626

### 人間力の錬磨と学力向上の両立を掲げる

平成元年に男女共学となり、姫路市唯一となる男女共学の私立校。「生徒と教職員が共に成長し、常に進化し続ける学校」、「社会に貢献するグローバル人材をそだてる学校」を目指している。

私は兵庫県の東洋大学附属姫路高等学校を卒業しました。東洋大姫路高校は、東洋大学の創立者である井上円了博士の「諸学の基礎は哲学にあり」という建学の精神を基礎とした「哲学教育」に「国際化」、「キャリア教育」を加えた三本柱を基本に据え、「グローバル人材」の育成を理念としています。また、スーパー特進コース、特進コース、総合進学コース、体育コースと生徒一人ひとりに最適な学習を提供するため、目標に合わせた4つのコースが用意されています。特に思い出に残っていることは、1年生のときに東洋大学の見学に行ったことです。日本の中心・東京にある白山キャンパスに足を運び、大学というものを肌で感じ、とてもいい経験になりました。また、私は過去に夏の甲子園優勝という歴史と伝統ある硬式野球部で3年間、野球に打ち込み、寮など日々の集団生活を通して、仲間や協力し合うことの大切さを学びました。このような経験を活かし、大学ではさらにレベルアップできるよう頑張っていきたいと思っています。

商学部商学科1年  
藤原 諒哉さん





# KANDAIing

内外に函大の元気を発信します!

自分自身を磨くクラブ活動  
それぞれが目標に向かい、  
情熱を持って打ち込む



遠藤 空さん  
商学部商学科1年  
(山形県・創学館高等学校出身)

浜山 陽希さん  
商学部商学科1年  
(北海道科学大学高等学校出身)

## 軟式庭球部 SOFT TENNIS

### 何が必要かを自分で考え、楽しむテニスがしたい

小学4年生からテニスを続けている遠藤 空さん。「親の友達がテニスのコーチを務めていて、その練習風景が楽しそうに見えたことがテニスを始めたきっかけでした」と話します。そして浜山 陽希さんは、小学1年生からテニスを始めたそうです。「4歳離れた兄がテニスをしていて、練習に付いて行くうちに、自然と私も始めていました。そして気がついたら大会に出場していましたね」と笑います。



「監督から指導者としての心得や考えも学びたい」と話す浜山さん。

そう話すふたりにとって、テニスを続けている理由や目的とは?「テニスは自分がプレーするのが楽しいだけでなく、人の試合を観ているのも面白かったです」と、記憶を辿って思い出したかのように話す遠藤さんは、練習を重ねて自分の成長を感じられるところが一番の魅力なのだとか。

一方、浜山さんは指導者を目指していることも、テニスを続けている原動力になっているそうです。「もちろん、楽しいことも大きな理由ではあるのですが、中学生の頃から教職免許を取って、学校でテニスを教えたいと考えていました。そこで、函大ではテニスとともに、教職免許取得に向けた勉強も頑張っていきたいです」と、目標に向かって走ります。

そんな浜山さんは、函大軟式庭球部でテニスを純粋に楽しむことを目標に掲げます。「高校までは真面目なテニスという感じで活動していたので、大学まで続けてきたからには楽しむテニスを覚えたいです。もちろん、やることをやって、勝ちを目指します」。個人ではダブルスで全道優勝、団体では王座決定戦への出場に向けて練習に打ち込みます。それを聞いた遠藤さんも、「私も同じ気持ちです。そして自分で考え、それをしっかりと実行していけるようになりたい」と燃えています。

自主練の時間が多く、自分が思い描く練習をできる環境がある函大軟式庭球部。「これまでは自分の考え通り、順調に練習ができています」と声を揃えるふたりは、コート外でも交流を深めている先輩たちとともに、抜群のチームワークで大会での活躍を誓いました。



「苦手な部分は自主練習でカバーして、もっと上達したい」と話す遠藤さん。



函館大学軟式庭球部HP <https://kandai-nantei.jimdofree.com>

## 硬式野球部 BASEBALL

### 一緒に頑張ってきたみんなと神宮のグラウンドに立ちたい

幼少期に野球好きな祖父とキャッチボールをしていたことなどがきっかけで、野球を始めた古谷 司さん。「小学生の時は外野手だったのですが、試合を動かしている感じがあるキャッチャーに憧れて、中学の時に自分からこのポジションを希望しました」と、以来、中学・高校・大学とキャッチャーのポジションを守ってきました。

高校の先輩方が函大硬式野球部で活躍していたこともあり、本学で野球を続けたいと思った古谷さんは、昨年秋のリーグ戦終了後にキャプテンを任せられました。その時は正直、驚いたと言います。「私がレギュラーとして試合に出たのは昨年秋のリーグ戦からだったので、『まさか自分が』と思いました。しかし、やらずに後悔するより、失敗から学んだほうが成長できると思い、チームにも貢献したいという気持ちから引き受けました」。キャプテンとして心掛けていることは、ワンマンにならないこと。「リーダーシップを発揮しなければならない場面は



ありますが、部員一人ひとりの考えを聞くようにしています。後輩たちはきっと、「話しやすいキャプテン」と感じていると思います」と笑います。古谷さんにとっては大学最後となる今年の秋の大会で、悔いを残さぬようチーム一丸となって勝利、さらにその先にある全国大会出場を目指します。

函館大学硬式野球部HP <https://kandai-bbc.jimdofree.com>



古谷 司さん  
商学部商学科企業経営コース4年  
(秋田県立秋田中央高等学校出身)



「自分にとって野球より面白いものはない。夢中になれることがあるのは幸せ」と話す古谷さん。

## アウトドア同好会 OUTDOOR

### 仲間たちと一緒に豊かな自然を楽しもう

一昨年の春に発足した函館大学アウトドア同好会。部長の浦崎 貴行さんと部員の加藤 凜基さんは、同好会の立ち上げに携わったふたりです。「アウトドア好きの私たち学生に本学事務職員の方が加わって立ち上げた同好会です」と浦崎さん。同好会の雰囲気は、とてもユルい感じと話す加藤さんは、「誰かが『あそこへ行って、これをやろう』と提案した時も、行きたいと手を挙げた部員だけが参加自由で集まっています」と、ちょっと苦笑いを浮かべました。釣りやバーベキュー、宿泊キャンプなど、道南を中心に活動しているようですが、奥尻では魚しか食べてはいけないというルールのもと、自給自足の生活をしたのだとか。そんなふたりは、「同じ“好き”を持つ仲間が集まり、一緒に活動するということ自体がまず楽しく、自然とのふれあいが一番の魅力です」と、声を揃えます。



「活動を通して仲間がいること、そして信頼関係の大切さを学びました」と話す浦崎さん。(右)  
「新しく同好会を立ち上げたという充実感、自分の財産になりました」と話す加藤さん。(左)

函館大学アウトドア同好会 Facebook [https://www.facebook.com/kandaiturikichi/?ref=page\\_internal](https://www.facebook.com/kandaiturikichi/?ref=page_internal)

また、アウトドア同好会はネットヨタ函館とコラボし、制作した道南PR映像が話題になりました。「プラグインハイブリッド自動車(PHV)で道南を巡り、自然をはじめとした道南の魅力を知ってほしいという目的で動画『俺たちのRoadTrip』を制作しました」。肩肘張らず、部員たちはどんな時も自然とのふれあいを楽しんでいます。



加藤 凜基さん  
商学部商学科  
企業経営コース4年  
(函館大学付属  
有斗高等学校出身)

浦崎 貴行さん  
商学部商学科  
企業経営コース4年  
(函館大学付属  
有斗高等学校出身)





# 実践型学習を経て、理論的な研究へ

## 函大ゼミナール紹介

本学ではフィールドワークを中心とした実践的な授業である「商学実習」を1・2年次の必修科目にしています。そして、その商学実習で培った学びをより論理的に研究し、卒業論文の完成へとつなげていくための重要なカリキュラムとなっているのが、3・4年次の必修科目となる「専門ゼミナール」です。本学では個性あふれる教員たちの専門ゼミナールで、学生たちがさまざまな研究に励んでいます。そこで今回は、田中先生、蔣先生のおふたりの専門ゼミナールをご紹介します。

商学実習から専門ゼミナールへの流れ

- 1年次**  
**商学実習Ⅰ**  
商学の対象・方法を理解していく
- 2年次**  
**商学実習Ⅱ**  
企業・市場・地域の課題を体験的に分析していく
- 3年次**  
**専門ゼミナールⅠ**  
商学の理論を学修していく
- 4年次**  
**専門ゼミナールⅡ**  
実践的研究による卒業論文の作成

### 専門ゼミナールⅠ・Ⅱ(経済史)

#### 歴史史料からデータを構築して分析、考察する

担当教員/田中 浩司 教授

このゼミナールでは、主に日本中世(鎌倉~戦国、織豊時代)の経済史について学んでいきます。歴史の研究とは、事実を確定して(自分で「証拠」をみて確かめて)、それを評価することだと言われます。歴史的な事実を知る、確定するためには、その根拠となっている「証拠」、これを史料といいます。この史料を解読することが必要となります。この史料にさかのぼって事実を見極めることができるようになること、それこそが大学で歴史を学んだ証であり、歴史学において真理の探究の方法を身に付けたことを意味する、最も重要なことと言えます。このゼミでは史料として、織田信長などの歴史的に有名な人物が出した経済法令も読みますし、寺院の帳簿や土地の売買契約書など、いろいろな経済史料を読んでいます。ほとんどは活字になっている史料ですが、それでも日本風の独特な漢文を解読するのは、なかなか大変です。現代社会では、経済に関するデータが無数に存在していて、



田中 浩司教授



それをインターネットを通じて容易に入手できます。ところが、鎌倉・室町・戦国時代の研究状況を見ると、そうしたデータは多くはありませんし、欲しい史料やデータはそうは転がっていません。ですから、似通った史料をたくさん集めて、独自(オリジナル)のデータを構築して、そのデータを分析する中で、何か新しい発見(=オリジナリティ)を得ることも少なくないのです。こうしたデータの収集・構築、分析、考察といった一連の作業は、社会で必要とされる汎用性の高い、課題解決のための思考方法とも共通するものです。私のゼミナールでは、古い時代の経済史を勉強し、卒業論文をまとめていく中で、こうした汎用性の高いアカデミックスキル、思考方法を身に付けてもらうことを目的としています。こういう経済史に興味をお持ちの方の入ゼミをお待ちしています。



### 専門ゼミナールⅠ・Ⅱ(経営学)

#### 新しい変化に着目し、経営学的視点から分析する

担当教員/蔣 博文 専任講師

本ゼミナールでは、近年のビジネスに関する新しい変化—例えば新技術や珍しい取引形態、新興の市場や産業など(特にインターネットに関連した変化)に着目し、経営学的視点から分析することを目的としています。近年、各産業を取り巻く市場環境の変化は著しく、そのスピードもどんどん加速しています。皆さんには、社会的に新しい変化をとらえ、その中でいち早く有用な知識を掴むプロセスに魅力を感じてほしいと思っています。そのためには、未知の現象に対して1から調査・分析を行い、情報選別・獲得の能力を養うことが大事となります。イノベーション(革新)を起こすのは、いつだって時代の変化を真っ先に捉え、既成概念を突破する人



蔣 博文専任講師

たちです。本ゼミの前半では、研究の進め方に関する基礎知識を学びます。また、テーマの選定と併せて、新しい経営の変化に関連した文献を輪読し、卒業研究に向けた土台作りを行います。報告と討議を通じて、自分の考えを論理的に相手に伝える力や、発表に関する実践的スキルを高めることも目的とします。後半では、各自が選んだテーマに関して輪読・調査・報告・修正のサイクルを回していきます。ゼミ生の皆さんのテーマを例に挙げますと、「QRコード決済から考えるキャッシュレス決済市場の変化」、「AIの経営学的利用」、「Vtuberから考えるコンテンツ市場成長のライフサイクル」などがあります。テーマは自由ですが、やはりできるだけ新しい事象に注目してほしいと思っています。大学に入学することは目的ではなく、皆さんが「充実した、幸せな人生」を送るための手段(選択肢の1つ)になります。ですので、ぜひ大学進学だけで終わるのではなく、その先も見据えた目線で自分の人生をデザインしていただきたいと思います。大学における経験は、皆さんにそれを実現させる力、知識、意欲をもたらしてくれます。



## TOPIC

### 朝日新聞社社長・渡辺雅隆様が御来学



左から本学副学長・永盛恒男、本学学長・野又淳司、朝日新聞社社長・渡辺雅隆様、朝日新聞社社長秘書役・佐々木学様。

2019年10月23日、朝日新聞社社長・渡辺雅隆様が秘書役の佐々木学様と共に本学に御出でくださいました。本学では2016年から1年生全員に朝日新聞を大学の費用で購読させております。関心を持った記事をノートにスクラップさせ、疑問点・不明点を更に調べさせる等、学生の学力向上、社会への関心等を狙いとして始めた施策です。そのような施策が渡辺様の目にとまり、本学の教育に対して関心を持ってくださったことが今回の御来学のきっかけとなりました。学長室にて野又学長より新聞記事を用いた本学の教育について詳しく説明申し上げ、学生のスクラップブックをお見せしました。渡辺様からは新聞紙面を読むことのメリット等をお話いただき、大変有意義な時間を過ごすことができました。令和の式典に御出席後、御来函、翌午前中本学訪問、午後帰京されるという大変お忙しい中、御出でくださいました渡辺様、佐々木様には、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。



# PBL

## 【課題解決型学習】

大学を飛び出して  
函館とともに  
成長する

地域連携センター長  
安木 新一郎 准教授



PBL (Project-Based Learning) とは、学んだことを現実の課題解決につなげられる能力の育成を目的とした教育手法です。「商学実習」(通年科目)では、10~12名の学生が1チームとなり、函館を中心とした道南・青森地域の抱える課題について、文献調査だけでなくフィールドワークやインタビュー・アンケート調査などを通じて情報を集め、その解決に向けた報告・発表を行います。「専門ゼミナール」(3・4年次)では学生自身が決めた研究課題について、通常の講義や「商学実習」等で培ったものを生かし、卒業論文を執筆することで社会人としての能力を身に付けます。そのほか課外学習としては、台湾、シンガポール、フィリピンなどでの調査・交流を現地大学・機関とともに実施しています。また、函館新聞で毎月第1金曜日に「函館大学講座」を連載しております。1月から6月のテーマは「交通」でした。7月から12月のテーマは「教育」です。経営学、会計学、経済学、英語教育等の観点から、教員がリレーで執筆しています。

### PBLの課題例

- ムスリム(イスラム教徒)観光客の誘致に向けた調査研究
- 台湾への食の輸出拡大に向けた調査研究  
(台湾・長栄大学との共同調査)
- 北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録に関する意識調査
- 函館に住む高等教育機関の学生の幸福度調査  
(函館市企画部との連携調査)
- 夜のにぎわい創出:湯の川温泉夜市の試み

### 函館新聞紙上公開講座

- 毎月第1金曜日に函館新聞の紙面で掲載しています。

### 7~12月はシリーズ「教育」

テーマ: 数学教育の必修化、簿記検定、  
キャンパスコンソーシアム函館(CCH)の取組、  
遠隔教育、英語教育、英語資格試験

※なお、今年度の春期公開講座は中止、秋期開講は未定です。  
詳しくはホームページをご覧ください。

## 令和元年度 学校法人野又学園 決算書

(単位:千円)

### 資金収支計算書

資金収入の部		資金支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	1,128,029	人件費支出	1,528,378
手数料収入	23,459	教育研究経費支出	460,966
寄付金収入	1,882	管理経費支出	211,247
補助金収入	843,404	借入金等利息支出	412
国庫補助金収入	241,731	借入金等返済支出	10,036
地方公共団体補助金収入	520,975	施設関係支出	682,421
施設型給付費収入	78,182	設備関係支出	64,325
その他の補助金収入	2,516	資産運用支出	32,961
資産売却収入	41,547	その他の支出	263,101
付随事業・収益事業収入	73,497	(予備費)	
受取利息・配当金収入	53,218	資金支出調整勘定	△106,648
雑収入	71,624	翌年度繰越支払資金	459,323
借入金等収入	0		
前受金収入	202,849		
その他の収入	997,881		
資金収入調整勘定	△324,292		
前年度繰越支払資金	493,424		
資金収入の部合計	3,606,522	資金支出の部合計	3,606,522

### 事業活動収支計算書

科目		金額
教育活動の活動部	学生生徒等納付金	1,128,029
	手数料	23,459
	寄付金	1,418
	経常費等補助金	834,971
	国庫補助金	233,298
	地方公共団体補助金	520,975
	施設型給付費	78,182
	その他の補助金	2,516
	付随事業収入	60,497
	雑収入	76,439
教育活動の支出部	教育活動収入計	2,124,813
	人件費	1,496,134
	教育研究経費	701,883
	管理経費	279,416
教育活動の収支差額	徴収不能額等	5,424
	教育活動支出計	2,482,857
教育活動収支差額	△358,044	

教育活動外収支		金額
収入の部	受取利息・配当金	53,218
	その他の教育活動外収入	13,000
	教育活動外収入計	66,218
支出の部	借入金等利息	412
	その他の教育活動外支出	0
	教育活動外支出計	412
教育活動外収支差額	65,806	

経常収支差額		金額
特別収入の部	資産売却差額	14,547
	その他の特別収入	8,991
	特別収入計	23,538
	特別支出の部	資産処分差額
その他の特別支出		496
特別支出計		8,004
特別収支差額	15,534	

予備費		
基本金組入前当年度収支差額	△276,704	
基本金組入額合計	△672,341	
当年度収支差額	△949,045	
前年度繰越収支差額	△1,516,857	
基本金取崩額	0	
翌年度繰越収支差額	△2,465,902	

事業活動収支		金額
事業活動収入計	2,214,569	
事業活動支出計	2,491,273	

### 貸借対照表

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	14,554,636	固定負債	443,494
有形固定資産	9,925,050	流動負債	473,987
特定資産	3,600,801	負債の部合計	917,481
その他の固定資産	1,028,785	純資産の部	金額
流動資産	567,303		
		繰越収支差額	△2,465,903
		純資産の部合計	14,204,458
資産の部合計	15,121,939	負債及び純資産の部合計	15,121,939

## 授業アラカルト



# 『商学実習』

藤原 凜 准教授

函館大学には、「商学実習」という  
アクティブラーニング型授業があります。  
ここでは私のクラスの取り組みの  
一例をご紹介します。

## 学生たちの 斬新なアイデアで 地域の課題を 解決に導く。

この授業の狙いは、地域貢献を通して達成感を共有し、成長を実感しあうことです。学生自らが地域の課題を見つけ、学生ならではの斬新なアイデアを社会に実装していくことで、問題発見能力・課題解決能力・コミュニケーション能力の涵養を目指しております。2017年にスタートしたムスリム(イスラム教徒)観光客受け入れ態勢の整備に関する研究を手掛かりに、具体的な中身を説明させていただきます。

まず、最初の6~7回の授業で地域の問題点を出し合い、「創出したい価値」「実現可能性」「持続可能性」を軸にディスカッションを重ね、一つのテーマに絞ります。実際、この時に選ばれた案は、函館に入港する大型客船で通訳ボランティアを務めた高野美紗さんの違和感がきっかけでした。「せっかく函館に来たのに、ムスリムの観光客は下船しない」。その理由を探ったところ、函館にはムスリムが1日5回必要とされる礼拝に必要な場所も、食することが許されるハラール食もないことが分かりました。国際観光都市函館の魅力をもっと世界に発信したい、という純粋かつ強い思いが一連の活動の原点でした。

次に、夏休みを含む3か月間で関連書籍を読み、基礎知識を固めました。クラス全員で1人3冊を目安に本を読んでレジュメを作成し、持ち回りでプレゼンターとなって勉強会を続けました。これを糧に、①礼拝所の開設、②食の対応、③ムスリム検定の作成、④マラッカとの姉妹都市の締結などの解決策を用意し、「HAKODATEアカデミックリンク」に臨みました。結果、「審査員特別賞」を受賞したことで、チームの結束力とメンバーひとり一人の自己肯定感が見違えるほど伸びました。

その後は、2018年5月に「市長のタウンミーティング」で函館市との連携を図り、同8月には函館大学ベイエリアサテライトに礼拝所を開設しました。次に、2019年3月に「For Muslim & Vegetarian Hakodate South Hokkaido GUIDE MAP」を発行しました。渡島振興局の協力で、地元の飲食店

を巻き込んだ勉強会を開催し、趣旨に賛同した函館旅館協同組合の資金拠出を受け、マップ作りが実現しました。学生の発案が、見事な産官学連携に結び付いた好例と言えます。

かかる取り組みは、新聞(全国紙・地元紙)やテレビ局(全国放送・ローカル局)などのメディアに取り上げられ、高橋はるみ前知事が視察に訪れるほど注目されました。現在、チームメンバーは一連の活動を通して得たかけがえのない財産を生かし、就職活動に励んでおります。

